

# 6 若者の晩婚化・非婚化が 出生率低下・少子化の主因 男女ともに 若者が家庭を持ちづらい社会が原因

若者が家庭を持つことを困難にしている東京社会 26.10.19 (8.29) 矢島義恭

1人の女性が生涯に産む平均的な子どもの数のことを合計特殊出生率という。人口を維持するには2人必要だが、男子の出産の方が多いので**2.07**が必要とされている。近年の日本の少子化による人口減少の原因はこの出生率が低下して、**1.40前後**という低い水準に低迷していることにある。出生率の低下は数十年後の20～39歳出産世代女性人口の減少となり少子化を一層加速させている。

近年の非常に低い出生率の原因は、出産女性の子どもの数の減少傾向もあるが、それ以上に**男女の未婚率上昇による晩婚化と非婚化**による要因が大きい。晩婚化は夫婦の平均的な子どもの数を下げ、非婚化は家庭を持たず子育てしない男女の割合を大きくする。晩婚化や非婚化の原因は女性の意識や選択の問題にされがちであるが、結婚が両性の合意でなされる以上、**女性同様に男性の晩婚化・非婚化も問題**である。更には東京など**大都市の異常**なほどの晩婚化・非婚化の進行は深刻である。

## 1 東京都の女性の高い未婚率

- 30歳の未婚率52%、約半数が未婚である
- 35歳の未婚率34%、3人に1人と極めて高い。
- 40歳の未婚率26%、4人に1人が未婚である。
- 50歳未婚率すなわち生涯未婚率が17%、6人に1人が非婚である。
- 10年前と比較すると、30歳以後の未婚率が上昇し、晩婚化・非婚化が著しく進行している。

## 2 東京都の男性の高い未婚率

- 10年前より改善されたものの、30歳の未婚率が60%と著しく晩婚である。
- 35歳の未婚率44%、およそ半数が未婚である。
- 40歳の未婚率35%、3人に1人が未婚である。
- 生涯未婚率は24%、非婚者が4人に1人と**家庭を持たない男性が異常に多くなっている**。

## 3 長野県のような地方でも未婚率が上昇している

女性では東京都と比較すると各年代で10%弱 未婚率が低く、福井県同様の水準である。しかし20歳代、30歳代の女性でいずれも10年間に5～8%も未婚率が上昇し、東京都に追随して晩婚化や非婚化が進んでいる。

## 4 若者が家庭を持ちづらくしている日本社会

晩婚化・非婚化が進行している背景には若者が家庭を持つことを困難にしている**社会経済的な環境**がある。収入・雇用の不安定や将来展望のなさ、子育てやそれ以上に**厳しい職場環境**などが若者に家庭を持つことを躊躇させる。そこには成長を追い求めてきた日本社会の劣化がある。容易に「**家庭をもち子育てできる社会**」を実現できれば、出生率は回復し真の選択の自由が生まれる。**抜本的な改革**が求められるゆえんである。

未婚率が上昇し 晩婚・非婚がすすむ東京社会

国勢調査値 より計算 (年齢)	東京都の女性		福井県	東京都の男性	
	2000年	2010年	2010年	2000年	2010年
25～29歳	65	64	55	79	71
30～34歳	38	40	28	54	50
35～39歳	22	29	17	33	39
40～44歳	15	23	11	24	31
45～49歳	12	19	7	21	26
下記は上記の平均					
30歳未婚率	51%	52%	42%	67%	60%
35歳未婚率	30%	34%	22%	44%	44%
40歳未婚率	19%	26%	14%	29%	35%
50歳未婚率 (生涯未婚率)	11%	17%	6%	12%	24%
女性の 合計特殊出生率	1.07	1.12	1.61		

2010年の30歳代女性未婚率で東京都が第1位、福井県は47位

地方の長野県でも未婚率が上昇している

国勢調査値 より計算 (年齢)	長野県の女性		東京都	長野県の男性	
	2000年	2010年	2010年	2000年	2010年
25～29歳	52	58	64	69	71
30～34歳	24	31	40	42	46
35～39歳	12	20	29	27	35
40～44歳	7	14	23	19	28
45～49歳	5	10	19	14	22
下記は上記の平均					
30歳未婚率	38%	44%	52%	56%	59%
35歳未婚率	18%	25%	34%	35%	41%
40歳未婚率	10%	17%	26%	23%	31%
50歳未婚率 (生涯未婚率)	5%	8%	17%	12%	19%
女性の 合計特殊出生率	1.59	1.53	1.12		

2010年の30歳代女性未婚率で東京都が第1位、長野県は34位